

# Yamaha LAN Monitor for Mac

## 主なアップデート内容

### V1.9.3

#### 新機能

- Dante 機器の PTP 状態を表示できるようにしました。
- macOS13.x および Apple M2 プロセッサに対応しました。  
※ただし、Apple M2 プロセッサ環境では、Rosetta2 を介しての動作となります。

#### 改善点

- 「一覧マップ」のウィンドウサイズを変更できるようにしました。
- 「一覧マップ」および「機器詳細ビュー」でのリンク速度表示の配色を変更しました。

リンク速度	変更前カラーコード	変更後カラーコード
5Gbps	#2c7bf7	#50bbd8
10Gbps	#a530f6	#9807a0

- 「接続機器」ビューの対象種類列をダブルクリックしたときにアイコンを選択するためのダイアログを表示するようにしました。
- 以下の各種セルをダブルクリックして編集状態にした場合、対象セルをハイライト表示するようにしました。
  - マップ画面の「接続機器」ビュー
    - 種類
    - 機器ラベル
    - 機器名
    - コメント
    - メーカー
    - 消費電力(W)
  - リスト画面の「L2MS エージェント一覧」タブ
    - 機器ラベル
    - コメント
- PoE ガードバンドに関する履歴の記録条件を変更しました。

#### [ 変更前条件 ]

- 記録の対象はツリービューで選択中の PoE スイッチのみ
- 総給電量がガードバンドの範囲に入ったまたは出たとき

#### [ 変更後条件 ]

- 記録の対象は全て PoE スイッチ
- 総給電量がガードバンドの範囲に入ったとき
- ・ ツールバーおよびマップ画面上のボタンをマウスオーバーしている間に対象のボタンをハイライトするようにしました。
- ・ OUI ファイルを更新しました。

### 修正した不具合

- ・ 機器の IP アドレスを変更したときに VLAN ID が 1 になるバグを修正しました。
- ・ 2.5Gbps または 5Gbps でリンクアップしている機器が表示されないバグを修正しました。
- ・ ファームウェア一括更新で、ダイアログの表示が不正になる場合があるバグを修正しました。
- ・ 一覧マップの印刷画面が正しく表示されない場合があるバグを修正しました。

## V1.8.6

### 新機能

- ・ WLX222 を L2MS エージェントとして管理できるようにしました。
- ・ ヤマハスイッチのスタックポートがリンクダウンしたときに、通知エリアにメッセージを表示するようにしました。
- ・ 自身以外の L2MS マネージャーを検出したときに、通知エリアにメッセージを表示するようにしました。
- ・ 「About」メニューの名称を「ヘルプ」メニューに変更し、「ヘルプ」メニュー内にユーザーガイドを Web ブラウザーで開く機能を追加しました。

### 改善点

- ・ 以下の用語を変更しました。
  - L2MS: マスター(Master)/スレーブ(Slave)→マネージャー(Manager)/エージェント(Agent)
  - バックアップ経路: マスター経路→メイン経路
- ・ ヤマハネットワーク製品における今回の用語変更の詳細については、以下の URL をご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/notice/terms/terms-change.html>

- ・ リスト画面の「スイッチ/無線 AP 一覧」タブの名称を、「L2MS エージェント一覧」に変更しました。

- リスト画面の「L2MS エージェント一覧」タブで、表示件数を表示するようにしました。
- ファームウェア一括更新の実行ダイアログの「進捗状況」列で、ファームウェアファイル転送の進捗率を表示するようにしました。
- ファームウェア更新および CONFIG インポート/エクスポートの処理性能を向上させました。
- アプリの終了時に、管理中のエージェントを管理下から外すためのメッセージを送信するようにしました。

このメッセージを受け取ったエージェントは、すぐに次のマネージャーの管理下に入れる状態となります。

- 以下の箇所で CSV ファイルを出力するとき、ファイル選択ダイアログにデフォルトファイル名を表示するようにしました。

[リスト]-[L2MS エージェント一覧]-[CSV エクスポート]

[リスト]-[ファームウェア更新]-[ファームウェア更新]

[リスト]-[CONFIG インポート/エクスポート]-[CONFIG インポート]

[リスト]-[CONFIG インポート/エクスポート]-[CONFIG エクスポート]

- ファームウェアの一括更新および CONFIG の一括インポート/エクスポートの実行結果を、以下の場所に自動的に保存するようにしました。
  - ~/Library/Application Support/Yamaha/LANMonitor/result
- 一部のレイアウトや文言を調整しました。
- OUI ファイルを更新しました。

## 修正した不具合

- L2MS エージェントが 1 台のみの構成で、スナップショット機能が動作しないバグを修正しました。
- 接続機器ビューで、VLAN ID が一時的に表示されないことがあるバグを修正した。本バグは Ver.1.7.5 以降で発生します。
- ファームウェア一括更新により、再起動した L2MS エージェントが他の L2MS マネージャーの管理下に入ると、ファームウェア更新ダイアログが閉じられなくなるバグを修正しました。
- ファームウェア一括更新で、実行中のダイアログに表示される失敗理由が空になることがあるバグを修正しました。
- ファームウェア一括更新で、ファームウェアファイルの転送が完了した L2MS エージェントがいる状態で「中断」ボタンを押すと、ファームウェア更新ダイアログが閉じられなくなるバグを修正しました。
- ヤマハ無線 LAN アクセスポイントに接続されている端末の無線接続を切断すると、ヤマハ無線 LAN アクセスポイントの無線モジュールの MAC アドレスが接続機器ビュー上に表示されるバグを修正しました。

- macOS12 環境で、LAN Monitor をインストールした後の完了ダイアログが自動的に閉じられてしまうバグを修正した。本バグは Ver.1.7.5 以降で発生します。

## V1.7.5

### 新機能

- リスト表示機能に対応しました。  
詳しくはユーザーガイドをご参照してください。
- 以下の機器で CONFIG のインポート/エクスポート機能に対応しました。  
(ファームウェアリビジョンの記載がない機種は全リビジョンに対応します)
  - SWX3220 シリーズ
  - SWX3200 シリーズ
  - SWX3100 シリーズ
  - SWX2322P-16MT
  - SWX2320-16MT
  - SWX2310 シリーズ
  - SWX2310P シリーズ
  - SWX2300 シリーズ Rev.2.00.14 以降
  - SWX2221P-10NT
  - SWX2220-10NT
  - SWX2210 シリーズ
  - SWX2210P シリーズ
  - SWX2110 シリーズ
  - WLX シリーズ
  - SWR2310 シリーズ
  - SWR2311P-10G
  - SWP2
  - 詳しくは、ユーザーガイドを参照してください。
- 以下の機器でファームウェア更新に対応しました。
  - SWX3220 Rev.4.02.08 以降
  - SWX3100 Rev.4.01.28 以降
  - SWX3200 Rev.4.00.24 以降
  - SWX2322P Rev.2.06.08 以降
  - SWX2320 Rev.2.05.08 以降
  - SWX2310 Rev.2.04.10 以降

- SWX2310P Rev.2.02.23 以降
- SWX2221P Rev.1.05.01 以降
- SWX2220 Rev.1.04.01 以降
- SWR2310 Rev.2.04.10 以降
- SWP2 Rev.2.03.14 以降
- SWR2311P Rev.2.02.23 以降
- 詳しくは、ユーザーガイドを参照してください。
- 以下の機器で機器名の設定に対応しました。
  - SWX3220 Rev.4.02.08 以降
  - SWX3100 Rev.4.01.28 以降
  - SWX3200 Rev.4.00.24 以降
  - SWX2322P Rev.2.06.08 以降
  - SWX2320 Rev.2.05.08 以降
  - SWX2310 Rev.2.04.10 以降
  - SWX2310P Rev.2.02.23 以降
  - SWX2221P Rev.1.05.01 以降
  - SWX2220 Rev.1.04.01 以降
  - SWX2210P Rev.1.03.01 以降
  - SWX2210 Rev.1.02.01 以降
  - SWR2310 Rev.2.04.10 以降
  - SWP2 Rev.2.03.14 以降
  - SWR2311P Rev.2.02.23 以降
  - 詳しくは、ユーザーガイドを参照してください。
- 接続機器ビューで、2015年7月4日～2022年2月1日の間に登録されたベンダーコードを持つ端末のメーカー名を表示できるようにした。
- macOS12, M1 プロセッサに対応しました。

## 改善点

- 接続機器ビューで以下のセルに対し、ダブルクリックもしくは F2 キーの押下を実行したとき、セルの内容を入力するためのダイアログを表示するようにしました。
  - 機器ラベル
  - 機種名
  - コメント
  - メーカー

- 消費電力(W)
- 基本設定ダイアログで、「端末情報の監視時間間隔」という項目名を「端末情報の更新間隔」に変更しました。また、値の設定範囲の最小値を 1800 秒から 10 秒に変更しました。
- 基本設定ダイアログで、テキストボックスを空欄にしてフォーカスを外したとき、当該テキストボックスにデフォルト値を入力するようにしました。
- 基本設定ダイアログで、Tab キーでのフォーカス遷移順序が上から下になるように変更しました。
- ラベル設定ファイルのバージョンを 1.2 から 1.3 に変更しました。  
バージョン 1.2 以下のラベル設定ファイルは、本バージョンでインポートして使用することができます。  
また、本バージョンで生成されたバージョン 1.3 のラベル設定ファイルは、Ver.1.3.6 以前では使用できません。
- ラベル設定ファイルに以下の情報を保存するようにしました。
  - 前回の CONFIG インポート実行日時
  - 前回インポートした CONFIG ファイルのファイルパス
- 以下の箇所のレイアウトや文言を修正しました。
  - アプリ全体
  - 「機種名」の英訳表記を"Device Name"から"Model name"に変更しました
  - 基本設定ダイアログ
- macOS 上での高解像度表示に対応しました。

## 修正した不具合

- 生存確認の対象となっている L2MS エージェントの IP アドレスを固定 IP から AutoIP に変更すると、当該エージェントを接続機器ビューで表示したときに IP アドレスが表示されなくなるバグを修正しました。
- LAN Monitor を DVS(Dante Virtual Soundcard)と併用したとき、LAN Monitor から送信される L2MS フレームが大幅に増加するバグを修正しました。
- 一覧マップ上の機器名と一緒に一部不要文字が表示されるバグを修正しました。
- SWX2110-5G/8G、SWX2110P-8G の機器設定ダイアログから「工場出荷時の状態に戻す」を実行したとき、機器名の設定が工場出荷状態に戻らないバグを修正しました。
- 言語が英語の場合に「Quit LANMonitor」メニューが表示されないバグを修正しました。

## V1.6.4

### 新機能

- 以下の機器を L2MS スレーブとして管理できるようにしました。
  - SWX3220-16MT
  - SWX2320-16MT
  - SWX3220-16TMs
  - SWX2322P-16MT
- 接続機器ビューに Web ブラウザで開くボタンを追加しました。  
詳しくはユーザーガイドを参照してください。

## 改善点

- 以下の機器を L2MS スレーブとして検出したとき、PoE 給電をしない設定のポートの PoE 給電を自動的に開始しないようにしました。
  - SWR2311P-10G
- 機器詳細ビューおよび一覧マップで、リンク速度表示の配色を変更しました。

リンク速度	変更前	変更後
10Mbps	灰	灰
100Mbps	橙	橙
1Gbps	緑	緑
2.5Gbps	(非対応)	水
5Gbps	(非対応)	青
10Gbps	水	紫

- ラベル設定ファイルのバージョンを 1.1 から 1.2 に変更しました。  
バージョン 1.1 以下のラベル設定ファイルは、本バージョンでインポートして使用することができます。  
また、本バージョンで生成されたバージョン 1.2 のラベル設定ファイルは、Ver.1.3.6 以前では使用できません。
- ラベル設定ファイルに以下の情報も保存するようにしました。
  - VLAN の登録情報
  - アクセス先 URL の設定

## 修正した不具合

- スタック構成のスイッチを選択し、[ポート状態]タブで表示したとき、スタックポートのリンク状態が常にリンクダウンを示す黒色で表示されるバグを修正しました。
- 以下の条件で履歴エリアに表示されるメッセージを修正しました。
  - 「接続機器への最大供給電力量の合計」がスイッチの最大供給電力量を上回ったとき
  - 「接続機器への最大供給電力量の合計」がスイッチの最大供給電力量を下回ったとき
- 一覧マップで、4桁の VLAN ID を表示したとき、VLAN ID の先頭の桁が見切れてしまうバグを修正しました。

## お知らせ

- 本アプリケーションは、コンピューターと同一のネットワーク上に対応ネットワークスイッチ\*が1台以上存在しないと動作しません。また、同一ネットワーク上で本アプリケーションを動作させられるコンピューターは1台のみです。

\*SWP2-10MMF, SWP2-10SMF, SWP1-16MMF, SWP1-8MMF, SWP1-8, SWR2311P-10G, SWR2100P-10G, SWR2100P-5G, SWR2310-10G, SWR2310-18GT, SWR2310-28GT, SWX3220-16MT, SWX2320-16MT, SWX3220-16TMs, SWX2322P-16MT
- 本アプリケーションは、無線 LAN 経由では動作しません。有線の Ethernet 接続が必要です。
- 本アプリケーションの詳細については、「Yamaha LAN Monitor ユーザーガイド」をご参照ください。
- 本バージョンで生成されたラベル設定ファイルは、Ver.1.3.6 以前では使用できません。Ver.1.3.6 以前で作成されたラベル設定ファイルを、本バージョンでインポートして使用できます。

## V1.5.7

### 改善点

- ファームウェア Rev. 2.04.04 以降の SWR2310-28GT にて、スタック構成の管理ができるようになりました。

### 修正した不具合

- Yamaha LAN Monitor のネットワークアダプターを切り替えても、Dante 対応機器を検出するネットワークアダプターが連動して切り替わらない不具合を修正しました。  
ただし、ネットワークアダプターの切り替えには以下の制約があります。

- Yamaha LAN Monitor では Dante の共有インターフェースを使用するため、Yamaha LAN Monitor でネットワークアダプターを切り替えると、Dante の共有インターフェースを使用する他のアプリケーションのネットワークアダプターの設定も同時に切り替わります。
- ネットワークアダプターの切り替えタイミングによっては、切り替えた先のネットワークアダプターで Dante 対応機器を検出できないことがあります。アプリケーションを再起動するかネットワークアダプターの切り替えを再試行することによって、Dante 対応機器を検出できない状態を解消することができます。

## お知らせ

- 本アプリケーションは、コンピューターと同一のネットワーク上に対応ネットワークスイッチ\*が 1 台以上存在しないと動作しません。また、同一ネットワーク上で本アプリケーションを動作させられるコンピューターは 1 台のみです。  
\*SWP2-10MMF, SWP2-10SMF, SWP1-16MMF, SWP1-8MMF, SWP1-8, SWR2311P-10G, SWR2100P-10G, SWR2100P-5G, SWR2310-10G, SWR2310-18GT, SWR2310-28GT
- 本アプリケーションは、無線 LAN 経由では動作しません。有線の Ethernet 接続が必要です。
- 本アプリケーションの詳細については、「Yamaha LAN Monitor ユーザーガイド」をご参照ください。
- 本バージョンで生成されたラベル設定ファイルは、Ver.1.3.6 以前では使用できません。Ver.1.3.6 以前で作成されたラベル設定ファイルを、本バージョンでインポートして使用できます。

## V1.4.1

ファーストリリースバージョン